

# ふじみサラダボール子育て情報

「依存から自立」  
平成30年9月26日号  
板橋富士見幼稚園



## 自己性（自分）が育つとき

人間の成長においては、必ず人に依存しなければ生きられないことが条件とされています。そのため必ず育てる人がいて、その人に依存する生活が始まります。そして、ある程度発達し、自分の欲求が高まり始めると、自我が強くなり、依存しながらも自立へと動き出します。最も顕著に見られる姿は、離乳食が始まり、食の選択が可能になった時です。



自分が食べたいものと、今はいらぬものをはっきりと口で意思表示します。この時期を専門家は「自己性の発達」といいます。自我が芽生え始めると、「今まで、素直に何でも親の言うことを聞いてくれたのに、最近は言うことを聞かなくなってきたの」と、嘆くお母さんも少なくありません。

でもよく考えると、これは自立の始まりで、喜ばしいことなのです。手こずれば手こずるほど自立が加速し、自己を形成している証拠なのです。裏を返せば知的な能力が育ってきているということです。

では、この時期どのように育てていけばよいのでしょうか。子どもは自立しようと自我を強く表し、親のいうことをことごとく拒否しはじめ手こずらせませす。親は親で、依存してほしいと抱きしめ、あれやこれやと押しつけ、思い通りにしようとしませす。そんな中で、いくつか大切にしてほしいことを紹介しませす。

自立しようとするわが子の姿が見られたら、ぜひ「お手伝い」をさせてみてください。その際、一緒にして見せながらさせることがコツです。こうしたお手伝いを経験させることで、生活習慣や躰（しつけ）が身についてきませす。もう一つは、したいと我を張った時は、にこやかにさせてみてあげてほしいと思ひませす。勝手にやりたいと思つたことなので、失敗もあひませす。でも、失敗を繰り返ひ、成功をつかみ取る経験は、とても大切な経験です。

失敗しても励まし、「今度はできるかもよ」と頑張る気持ちを育ててあげてください。「ほら、やっぱりできないじゃない」と、挑戦する心をつぶしてしまうのは避けたいですね。人格は、1歳のこの時期から6歳にかけて自己を作り出してきませす。この作られた力を資質といひませす。この資質を使って、その後の能力を作るのです。ぜひ、依存させながら自立していく力を応援してあげてください。